2024年度 公益財団法人 JKA 補助事業の自己評価について

2024年度地域社会及び消費者の安全・安心に資する活動補助事業について、2024年3月13日 公益社団法人全国少年警察ボランティア協会において、自己評価を行いました。その結果は下記のとおりです。

記

2024年の刑法犯認知件数については、73万7,679件で、前年比で4.9%増加した。戦後最小となった令和3年から3年連続して増加し、令和元年の水準に近づいていることから、今後の動向について注視すべき状況にあり、少年犯罪も同様の傾向がみられた。

従前に比べ少年犯罪は減少傾向にあるものの、少年の自殺者、不登校、いじめの、家庭内暴力の認知件数は増加している。また、様々な問題を抱え居場所を失い、非行等に走りかねない少年達の立ち直りには、責任ややりがい等を持たせ、人々と協力し、それをやり遂げて達成感を味わい、あわせて規範意識や社会性も身に付けさせるという健全な育成の場を作る必要がある。

そこで、農場等において、農作物の種まき、施肥、草取り、収穫等の農作業に従事するという農業体験には、物事への継続した取り組みによる忍耐力の涵養やこれらの体験を通して、情操面における教育効果や居場所を見つけられるという効果も期待されている。

このようなことから、当協会では、本年度も公益財団法人 JKA の補助を受けて「農業体験による立ち直り支援」を実施し、全国の少年警察ボランティアと協力して、29都道府県(29か所)で実施した。その状況は、延べの参加人員では、少年636名、少年警察ボランティア864名、警察職員及び関係者等1,507名、合計3,007名であった。

少年たちは、農業指導員やボランティアなどの熱意ある指導等に触れていくうち次第に興味を持つようになり、参加した少年らからは「難しかったけど自分でもできたことが嬉しい。」「農作業がこんなに大変だとは思わなかったけど楽しくやれた。」など。

参加した学生ボランティアからは、「少年とどう関わればいいのか不安だったが、一緒に作業をすることで自然と会話ができるようになりました。」「立ち直り支援は、とても良い活動ですね。」など、少年と学生ボランティアが互いに成長した1年となった。

また、保護者からは「普段とは違う子供の様子を見て驚きました。」「少年警察ボランティアの方から子供の接し方について学ぶことができました。」等と感謝の意が伝えられた。

少年達は活動を通じて仕事の大変さや、それをやり遂げる達成感、充実感等を実感するとともに、自己肯定感の向上に繋がった等の声が多く聞かれた。

以上のことから、本事業は、少年達の立ち直りに役立ち、非行防止と健全育成に繋がっていくものと考え、今後も継続してこの取り組みを実施していく必要があり、さらなる成果を上げていくためにも、様々な工夫を凝らして中身の濃い活動にしていきたいと考える。

公益社団法人 全国少年警察ボランティア協会